



ホームページが新しくなりました。QRコードを読み取り御覧ください。スマイル附属情報を様々に発信中です！

令和4年度 附属小学校だより

スマイル²ふぞく



第10号 令和5年2月24日（金） 校長 古野 祐一

教育研究会の御協力に感謝！

2月3日（金）に教育研究発表会を開催しました。九州各県を中心に全国から341名の先生方に参会いただきました。新型コロナウイルスを乗り越えつつある中での3年ぶりの対面実施。困難に直面する時、新たな考えや取組が生まれることを、全国の教育現場の仲間と共有できたことも、研究発表会を開く醍醐味と感じました。今回、多方面からの御意見・御助言を受け、子どもが主役になる学校づくりの研究を、更に磨き、深めていきます。

こうした研究発表会が出来ましたのも、育友会本部の皆様をはじめとした、役員の方々の御協力があったからこそです。前日の教室内外の環境整備に始まり、当日は受付対応や弁当券の受け渡し、来賓接待など、多岐にわたってサポートいただきました。こうした対応の丁寧さや温かいおもてなしに対し、参観者の方々からも感謝の言葉をいただきました。寒い中、早朝より御協力をいただきましたこと改めて感謝申し上げます。引き続き附属小の使命・役割の達成に向け、保護者の皆様と一緒に取り組んでまいります。

【参会者アンケートより】

- ・案内をすごく丁寧にいただきました。先生方と子どもたち、保護者の皆さんの熱量をいただきました。
- ・受付のおもてなし（お茶まで温かい）、想いの詰まったお弁当、先生方の笑顔、子どもたちの輝く瞳などなど、研究授業以外のところでも、心がウキウキしました。
- ・初めて県外の研究会に参加させていただきました。どの教科においても子どもたちが勉強を楽しんでいる姿があり、それが一番、私たちが目指すべき姿だと思いました。

キャラクター候補の絞り込み！

182人からの応募がありました。個性溢れる力作揃いから、一次選考として、16作品を選出しました。21日（火）の全校朝会で発表したところです。二次選考は、子どもたちの投票によって決定します。経過は、後日お伝えいたします。

16作品は、校長室前廊下に展示中です。来週の育友会の折に、よろしければ御覧ください。保護者の皆様の投票も大歓迎です！



役員の皆様へ受付等をお願いしました。



北斗の学びを参観中の先生方。



熱心な議論が交わされた協議会の様子。



体育館で実施した講演会の様子。

※裏面に続きます！

笑顔の支え

先日、3年ぶりに全校参集しての朝会を体育館で実施しました。5年生は、真っ先に入室し場の雰囲気をつくりまします。6年生は、入口に整列し下級生を挨拶で迎え最後に入室します。凛とした空気の中、全員が顔を上げ話を聞く姿、校長先生の話に自分なりの反応を返す子ども、教室に戻る際に元気よく挨拶をする子ども、2年という月日が経っても以前と変わらない全校集会に、嬉しさを感じたともに日常が戻ってきていると実感しました。

めまぐるしい勢いで社会は進歩しています。コロナ禍を経て、社会の進歩とは、どんどん変わっていくことだけではなく、日々平穏になっていくこと、つまり私たちがこれまで防げなかったことをだんだん封じ込めていけるようになることも進歩であると考えます。

更なる進歩

学校では今、来年度に向けて話し合いが進められています。進歩するためには、現状を知ることが大切です。その中で重要な鍵になるのが、保護者の皆様からいただいた学校評価です。教育の世界でも大きな変化を迎える中、変えていくべき事と変えてはならぬ事を日々模索しながら、更なる進歩に向けて取り組んでおります。今回お寄せいただいた御意見全てが今後の学校運営の礎となる貴重な宝です。今後とも本校の特性や使命を御理解いただくとともに、保護者の皆様と共に歩んで参りたいと考えております。

さて、6年生教室からは、別れの歌の歌声が聞こえてきます。3月2日に行われる送別集会に向けてです。これから北斗の学校は、別れを経て次のステージに歩みを進める時期を迎えます。

教頭 橋田 晶拓

北斗の学び

「振り返り」の教育的効果

北斗の子の学びには、授業の終わりに「振り返り」という時間があります。子どもたちは、自分の成長を見つめたり、学んだことを生かして、他の問題に取り組んだりしています。そうすることで、学びの手応えを味わい、「やればできる!」と信じていることができるようになるのです。

そのためには、次の2つのことが大切です。1つ目は「失敗から学ぶ」ということです。失敗を振り返り、分析をする。これは、他者の失敗事例であっても「自分だったらどうするか」と考えることができます。北斗の子の学びでは、正答だけを提示して、覚えるのではなく、様々な考えについてみんなで検討しています。

しかしながら「失敗させるのはかわいそう」「やる気を失うのでは?」といった心配な気持ちもありますよね。そこで大切なことの2つ目が「見える化」です。「なぜ、どうしたら失敗するのか。」実は、本人が気付いていないことがあります。だから原因を一目で分かるようにする。これは、教師や親など、年長者の方が分かりやすくできると言われています。子どもは、課題が見えた時に適切なアドバイスをもらうことで、自分に役立てようとするでしょう。

今週や来週は、「力試し」があります。上記のことを意識して、2学期を振り返ってみてはいかがでしょうか。

主幹教諭 吉田 公悦

潜入! 附属小リアルスコープ

人が飛んでくる学校

2月3日に開催した教育研究発表会では、前日の準備から当日の運営まで、多くの保護者様に支えていただいたことで、盛会の内に終わることができました。ありがとうございました。

参観者の皆さんをお招きしての開催は3年ぶりということで、会場の設営から当日の運営に至るまで、あらゆる作業を担当中心に進めて参りました。それぞれの職員が自分の役割をもっており、中には一人では大変な作業もあるのですが、それでも何一つ困ることはありませんでした。それはなぜでしょうか。なぜなら、どんな作業であれ、誰かが何かをしようとする、一瞬のうちに何人もの職員が集まるからです。例えば受付テントの設置や移動、駐車場のライン引き、ストープへの給油など、10秒と経たないうちに人が飛んでくるのです。一体どこで見えていたのでしょうか。

これは、決して研究発表会の準備作業だけに限った話ではありません。日常から、人に何かあれば自分のことはさておいて人のためにまず動く。周囲に関心をもつからこそ起こる姿なのです。

子どもたちへの関わりについても同様のことが言えます。子どもの様子や表情を感じ取り、何かあればすぐに声を掛ける。このセンサーの感度を高め、素早い実行を心掛けているのが、本校職員の強みなのです。子どもに関する情報はいち早く共有し、複数の目で見守ります。そうすることで、センサーを更に研ぎ澄ませ、子どもたちの幸せを守り続けて参ります。

教務主任 才木 崇史

